

は じ め に

校長 岩 井 康 頼

弘前大学教育学部附属学校園での任務の一つに、本校における教育実践を踏まえ教育学部と連携した教育研究の推進がございます。平成29年4月に弘前大学大学院教育学研究科に教職実践専攻「教職大学院」が誕生しました。学校現場や地域の問題を敏感に捉え、それぞれの教育課題に理論と実践との往還を通じた省察をもとに的確に対応できる、いわば「実戦力」を身に付けることが目的です。これによって教育委員会と大学・教育学部、附属学校園、そして地域とのますますの連携体制が、様々な教育課題の研究開発にも繋がっていくものと期待しています。

さて本校では、26年度～27年度に「授業における自己評価システム構築と環境設定に関する実証的研究」を主題とした研究に取り組みました。その結果、いくつかの成果が得られると同時に、より適切な目標設定や自己評価を行うためには子どもたちの「表現」する力を育むことが必要であるということに気付く機会にもなりました。また、思いを豊かに表現することは自己実現の一つであり、自己肯定感をもち、より豊かな人生を歩むためにも大切であるという結論に至りました。そのような経緯を経て、28年度～29年度にかけては、主題を『「豊かに表現する児童生徒」を育む授業の在り方』と設定して研究を開始しました。

また、本研究を進めるに当たっては、弘前大学の先生方からは専門分野における度重なる助言やご指導を賜りました。また、数値化できない表情や様子等の質的な側面も着目し適切に読み取ることが大切であることから、エピソード記述の権威である京都大学名誉教授の鯨岡峻氏を講師として招聘し、講演や助言をいただきました。

なお、この度、開催いたしました公開研究発表会は、本校教員が実践したささやかな成果を発表する場となりました。今回の研究におきましては、教師が個に応じた方法を工夫し、指導や支援の在り方を研究し、授業の質を高めていくことも大きなねらいの一つです。参会の皆様方からのご助言により、さらなる授業改善に結び付け、子どもたちの発達を支援するために生かしていきたいと思っております。そして、本研究の成果が特別支援学校、小学校・中学校の特別支援学級において活用されることを期待しています。

今後とも、本校の教育研究開発の推進に向けた、いっそうのご指導、ご助力を賜りたくお願い申し上げます。

目 次

はじめに	1
I 今回の研究について	3
1 研究主題設定の背景	
2 研究主題	
3 研究の目的	
4 研究仮説	
5 研究計画	
6 研究内容と方法	
II 実践報告	8
国語グループ	8
音楽グループ	24
図画工作・美術グループ	36
体育・保健体育グループ	56
自立活動グループ	71
III 研究のまとめ	88
資料（公開研究発表会：分科会資料・記録）	92
おわりに	102
研究同人	103

お わ り に

本校では『「豊かに表現する児童生徒」を育む授業の在り方』というテーマで2年間校内研究に取り組んできました。

これまで本校で培われてきた研究成果を受け、さらに児童生徒の主体的な「表現」を目指してさまざまな取組を行ってきました。7月の研究発表会では多くの方に授業を見て頂き、貴重なご助言を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

普段の授業実践の中から子供達の行動や変容を丁寧に拾い上げていくこと、それらを適切に評価し、我々の実践にさらに磨きを掛けていくことが大切だと、日頃から感じているところです。このことを、改めて多くの方と共に確認できたことも今回の収穫のひとつと考えています。

また、我々が生きていくことが「表現」そのものであるように、授業は我々教職員自身が「表現」する場であると考えます。このことの意味を噛みしめながら、日々の授業に臨みたいものだと考えています。

さて、今年度告示された新学習指導要領のキーワードといえる「主体的・対話的な深い学び」。このキーワードをいかに日常の授業の中に落とし込み実践していくかが、これからの教育実践を考えるときに大きな意味を持つと考えます。

この2年間で得られた成果・課題を精査しつつ、これからの本校を取り巻く課題を見据え、本校で培った「主体的・対話的な深い学び」の実践を広く発信していけたらという思いを抱いているところです。弘前大学教育学部の皆様のご指導とご協力をいただきながら、新たなステージの校内研究に取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、皆様方の忌憚のないご意見とご教示をお願い申し上げ、私からのご挨拶といたします。

平成30年3月

副校長 木 崎 達 広

研 究 同 人

校 長	岩 井 康 頼	
副 校 長	加 藤 和 仁 , 木 崎 達 広	
教 頭	松 橋 浩 仁	

研究グループ＜国語＞		
小学部	中学部	高等部
岡 田 一 也 天 野 優 美 安 田 真由美	奈良岡 恵美子 船 水 志 乃 松 井 麻佐江	白 石 公 徳 鈴 木 匡 芳

研究グループ＜音楽＞		
小学部	中学部	高等部
勘 林 秀 平 柏 原 理 紗	小 枝 洋 平 宮 本 美 穂	棚 内 伸 子 成 田 淑 美 木 村 路 子

研究グループ＜図画工作・美術＞		
小学部	中学部	高等部
小 林 泰 子 齋 藤 陽 一	相 馬 力 今 夏 希 米 持 里 美	木 村 恵利子 梁 川 道 輔

研究グループ＜体育・保健体育＞		
小学部	中学部	高等部
中 嶋 実 樹 渡 邊 直 仁 鳥 潟 昌 也	工 藤 美 聡 津 川 朋 之	石 田 千 里 加賀谷 紀 榊 美 香

研究グループ＜自立活動＞		
小学部	中学部	高等部
◎谷 地 美奈子 西 谷 倫 子 寺 嶋 あさ美	木 村 薫 白 藤 剛 阿 保 英 人 丹 代 菜 々	森 修 子 矢 口 智 洋

◎研究部主任

研 究 紀 要

第 2 2 集

「豊かに表現する児童生徒」を育む授業の在り方

平成 3 0 年 3 月 発行

発 行 弘前大学教育学部附属特別支援学校

〒036-8174 青森県弘前市大字富野町 1-76

TEL 0172-36-5011 FAX 0172-36-5012